



南和広域医療組合発行

# はぴねすだより

～南和地域の医療と健康に関する情報誌～

創  
刊  
号



(建築中の南奈良総合医療センター)



**南和広域医療組合 南奈良総合医療センター (大淀町福神)**  
**南和広域医療組合 吉野病院 (吉野町丹治)**

**は平成28年4月にオープンします。**

※ 県立五條病院は28年4月に休院して改修工事を行い、29年4月に南和広域医療組合五條病院としてリニューアルオープン予定です。

この間、カルム五條隣接地に(仮称)五條診療所を設置し、内科・整形外科の外来診療を行います。

## 目次

- ・ 創刊のご挨拶 組合医療担当副管理者(南奈良総合医療センター院長予定者) 松本昌美 ……2
- ・ 名物先生登場 吉野町国保吉野病院副院長(組合吉野病院院長予定者) 福岡篤彦 ……2
- ・ 南奈良総合医療センターのご案内 ……3
- ・ 地域包括ケアシステム構築に向けて 奈良県地域包括ケア推進室 ……4
- ・ 編集後記 ……4

南和広域医療組合は、県と1市3町8村で構成し、南和の公立病院再編事業を進めています。

(連絡先) 〒637-0041 五條市本町3-1-13 電話: 0747-22-1283 URL: <http://nanwairyou.jp/>

## 創刊のご挨拶

組合医療担当副管理者（南奈良総合医療センター院長予定者） 松本 昌美



5年余りの準備期間を経て、いよいよ来年4月から南和地域の公立病院新体制がスタートします。「南和の医療は南和で守る」という組合基本理念の実現に向け、新設の「南奈良総合医療センター」は南和地域唯一の2次医療機関として、24時間365日救急車搬送患者を受け入れられる体制をつくり、住民の皆様が住み慣れたこの地域で、安心して暮らしていただくための拠点でありたいと考えています。

今回の病院再編事業では、現在の「五條病院」、「吉野病院」は療養期を中心とした病院に再構築し、救急からその後のリハビリ、在宅医療支援といったところまで、地域の関係機関と連携しながら、3病院が一体となって医療機能を明確にしてその役割を果たす体制づくりを進めます。

さて、住民の皆様が日頃の健康づくりにも留意され、安心して幸せに暮らしていただくことを願って、今回「はびねすだより」を創刊することといたしました。今後定期的に発行し、皆様に健康づくりや病院の情報等を発信していく予定です。どうぞ、病院ともども皆様のご支援、ご愛顧をよろしくお願いいたします。

## 名物先生登場

吉野町国保吉野病院副院長（組合吉野病院院長予定者） 福岡 篤彦



皆さん！毎日、大きな声で笑ってますか？子どもは、1日に200回以上笑っているようですが、大人になると、特に高齢になると大きな声で笑う機会はどんどん減ってませんか？

実は、笑いは神経的に交感神経が初期に活発に働き、笑い終盤には副交感神経が優位になります。そうすると、笑い初期には気合が入り、笑い終わると安らぐことになります。また、NK活性という免疫機構が活性化して感染症・がんに対して見張り番のように働いてくれます。そのNK活性が笑いで活性化することがわかっています。がんの予防、インフルエンザ予防にはしっかり笑わないと、と思います。また、糖尿病、高血圧などにも良い影響があることが報告されつつあります。



そこで、今、吉野町を中心にして地域に笑いヨガを普及して、笑いステーションを作るための準備をしています。地域で笑い場ができ、そこへ行けば笑いあえる仲間がいる、そのような場所を

笑いヨガに挑戦（吉野町森林セラピー体験） 作れないか模索しています。

さて、来年4月から、吉野病院は入院に関しては、3階病棟は現在同様の医療療養型46床、2階病棟は地域包括ケア病棟50床という少し特殊な一般病棟になります（地域包括ケアに関しては本誌4面をご覧ください）。また、外来診療は内科と整形外科になり、検査の多くは福神にできる南奈良総合医療センターに集約されます。今後、吉野病院は在宅診療を含めた地域医療に更に力を入れていく方向です。一部ご不便はおかけしますが、今後とも、吉野病院をごひいきに！！

## 南奈良総合医療センター(以下「医療センター」)のご案内①

新しい病院についてQ & A形式でご説明します。



### Q 1 医療センターではどんな治療が受けられるの？

現在の診療科に加え、救急科、精神科、歯科口腔外科、病理診断科を新設してスタッフを充実することで、救急搬送患者さんへの対応をしっかりと行うとともに、これからニーズが高まると想定される認知症治療も行っています。

また、脳神経外科診療等の充実を図ることで、一刻を争う脳出血や脳梗塞など脳血管疾患の緊急手術や治療も県立医大で行うのではなく医療センターで実施できることとなります。

### Q 2 医療センターでの救急患者受け入れ体制は？

現在南和地域では、出動した救急車が受け入れ先病院が決まらないため、なかなか出発できない事例が少なからず発生しています。医療センター開院後は、先ず救急搬送患者を受け入れるという基本方針で対応するため、夜間でも医師3名の配置を予定しています。



また、広範な南和地域に対応するため、28年度中にはドクターヘリが常駐する病院となるよう県と協議しています。更に夜間などヘリが飛べない場合の対応として、広域消防とドクターカー導入の協議も進めます。

なお、開業医さんが少ない地域の事情を鑑み、夜間休日の救急診療も行いますが、2次医療機関という病院の性格上、症状によっては救急搬送患者が優先となる場合もありますのでご理解とご協力をお願いします。

### Q 3 へき地診療所や地域の診療所との連携は？

医療センターでは新たに電子カルテシステムを導入しますが、へき地診療所とネットワークでつながることで、診療所の医師と医療センターの専門医が患者情報を共有できます。これにより、日常は診療所で受診されておられる方が検査や専門的治療等で医療センターを受診され、一定処置後、再び診療所に通院するといった流れがスムーズに行えます。また、電子カルテシステムがつながっていれば、医療センターの予約が診療所において直ぐに出来ますので、患者さんは待ち時間少なく医療センターの受診が行えます。

なお、今後は、へき地診療所以外の地域の開業医さんとも病診連携を図り、患者さんを医療センターに紹介していただく、又医療センターから一定処置後地元の開業医さんに紹介するといった形を進めていく方針です。

▷ 次回は医療センターでの主な受診の流れ・フロアマップ等のご案内です。

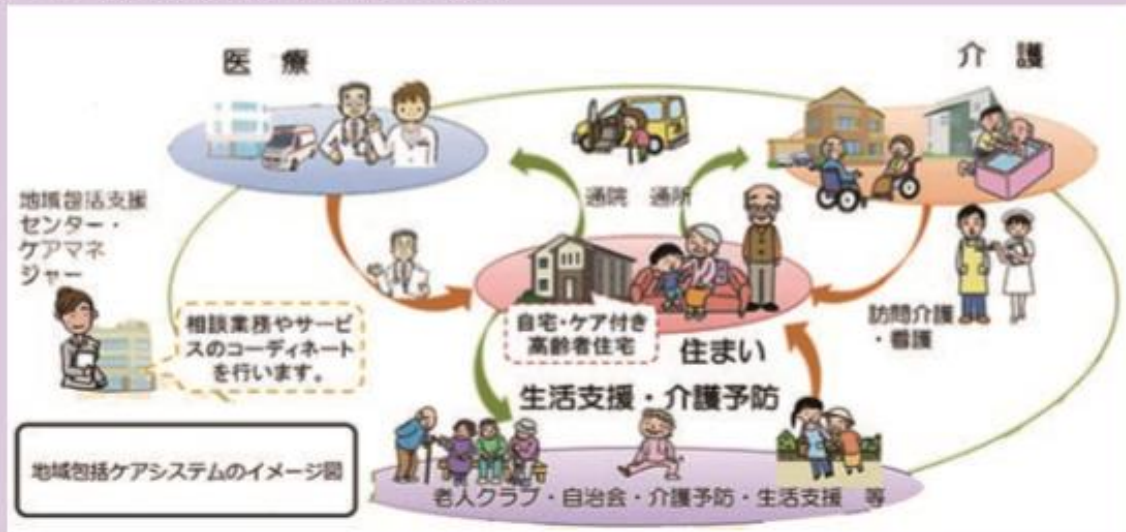
## ◆地域包括ケアシステム構築に向けて

奈良県地域包括ケア推進室

団塊の世代が75歳以上となる2025年には国民の約3人に1人が65歳以上となり、医療・介護を必要とする高齢者の急増で、現行の医療・介護制度では財源や人材確保等の観点から対応困難になると考えられています。一方、人生の最後を病院や施設ではなく住み慣れた自宅で迎えたいという希望も多くなっています。

そこで、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域でケアを受けながら、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるようなシステムづくりが求められています。

現在、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供されることにより、住み慣れた地域で、必要な支援を受けながら生活を継続できる仕組みである地域包括ケアシステムの取り組みが進められています。



### ●南和地域における地域包括ケアシステム構築への取組事例は？

紀伊半島大水害で被災した五條市大塔町において、地域で暮らし続けるための仕組みづくりとして、地域包括支援センター、自治会、民生委員、市社協、消防署、郵便局等で構成する「おおとう元気会議」を立ち上げ、見守りや買い物等の生活支援事業を県のモデル取組として実施しました。

### ●今後の南和地域における地域包括ケアシステム構築に向けた検討

南和地域在宅医療・包括ケア推進プロジェクト(県のモデル事業)が進行中です。

主 な 内 容	◎市町村・保健所・南和広域医療組合・地区医師会・歯科医師会・薬剤師会等が参画し、地域協議会を実施。 ◎限られた社会資源を活用しながら、へき地診療所と組合病院との医療連携や医療・看護・介護等の多職種による連携を進めていきます。
------------------	---

**編集後記** 「はびねすだより」創刊号は如何だったでしょうか。「住民の皆様向けの医療と健康に関する情報誌の発行」というトップのオーダーを受け、手作り感満載の冊子が出来上がりましたが、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

さて、オープンに向け地域の皆様が少しでも新しい病院に親しみを持っていただけるよう、今回は新しい病院の院長予定者の先生に登場いただきました。今後も「名物先生登場」では病院の顔となる先生方をご紹介していく予定です。ところで「笑いヨガ」は「主治医が見つかる診療所」等のTV番組でも免疫力を高める手軽な健康法として紹介されていますので、皆様も試してみてもは・・・。「笑う門には福来たる」、次回は来年春に発行予定です。